

有識者議員懇談会 議事概要

- 日 時 平成 24 年 7 月 19 日（木）10:04～10:46
- 場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室
- 出席者 相澤議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、青木議員、中鉢議員、倉持統括官、吉川審議官、大石審議官

○ 議事概要

議題 1. 資源配分方針について

- 相澤議員 本日は議題 1 件でございますが、資源配分方針についてでございます。資源配分方針は、総合科学技術会議の本会議で決定される内容でございます。来年度の概算要求に向けてどういう基本方針をとるかということを確認に示すものであります。これまでいろいろと検討してまいりましたが、本日はその最終の案をここで御検討いただきたいというふうに思います。内容について、鈴木参事官より説明をお願いいたします。

<鈴木参事官から説明>

- 相澤議員 これまで議論を重ねてまいりましたが、ⅠとそれからⅡという、こういう大きな 2 つの柱にして整理したというところが、前回の御意見を反映させて全体としてまとめた内容でございます。

本日はこれまで議論を積み重ねたものでございますので、基本的にはこのフレームワークで進めさせていただきたいと思っております。全体を見ていただいて、さらに特段の御意見があればここで出させていただくということ、もう一つは、本会議が開催されるまでには、多少の時間的余裕はありますので、字句の修正等は今後もあり得るということにさせていただきたいと思っております。

本日の資源配分方針の検討の状況は、午後に開催される専門調査会においても参考資料として提示されます。本日はもうこの内容がプレスの皆さんにもここで公開されている状況でございます。このようなことを踏まえまして、全体的なところについての御意見がございましたらよろしく願いいたします。

- 奥村議員 冒頭に出てくる日本再生戦略との関係です。どういう格好で閣議決定されるかにもよるのですが、先日の戦略会議で出てきている工程表等を拝見すると、必ずしもここで言っているのと 1 対 1 に対応がとれているとも限らない。特に人材育成、基礎研究のところについての工程表は、昨日たまたま議論していたこの参考 3 の資料とかなり違っているのです。ですからこのあたりの取扱いをどうするのかということ、ここだけでも決められるわけではないと思うのですが、今後どういふようなステップを踏んでいくのかということとも絡むのです。これが 1 つ重要なポイントだと思います。

- 相澤議員 それでは、まず、鈴木参事官のほうから、今の手続上、あるいはステップという問題でのコメントができることがありましたらお願いします。

- 事務局（鈴木参事官） ステップといいますか、確かにおっしゃるように日本再生戦略と例えばアクションプランは、それぞれこちらの観点、向こうの観点はありますので、完全に 1 対 1 に対応し

ているものではありませんけれども、例えばアクションプランを策定するに当たりまして、例えばライフ分野ですとイノベーションの関係の担当推進室と調整をし、内容についてすり合わせをして、できる限りの整合は図っていくという形で作業しております。グリーンにつきましても、今後、エネルギー環境分野で作業がまた引き続き行われますけれども、当部局、総合科学技術会議とも連携をしながら、向こうの作業に我々のこの知見を反映させていくといった形で、整合をとりながら今後進めていくということになると考えております。

○奥村議員 私が申し上げているのはその点ではなくて、それは私も大体見ているので、そうではなくて、基礎研究及び人材について、工程表とかなり違う論点になっているので、昨日出た議論の中身についてどうするのかということなのです。ここはそもそも基本計画でいいますと、第4章に相当するところで、大学院の抜本的な教育改革という大きなフレームワークのもとでこのⅡが対応しています。こういう構成上の理解が私は普通だろうと思うのです。その中で具体的に工程表が出てきて、当然それの中にはこの第4期基本計画の趣旨を取り入れているものも数少なくないわけです。そういう中で、きょうはここへ出てきていませんが、参考3と言われる昨日の議論の結果は、ややもすると研究中心であったわけで、これはかなり4期計画の第4章の趣旨とも違いますが、その違いをどう埋めていくのかということが、私の質問の趣旨です。

○事務局（鈴木参事官） 失礼いたしました。確かに昨日の基礎人材部会で、委員の先生方から基礎人材の現在取りまとめられる論点ということで、1枚紙について議論されたわけですがけれども、その中でも確かに当面の課題として研究側に原案が寄っているのではないかと、人材側のほうの視点が欠けているのではないかと、といったような御指摘があったことは確かで、おっしゃるとおりでありまして、当面のものとしてそういう人材についての目配りが必要だという軌道修正をするという方向だったかと思えます。また、基礎人材部会につきましては、今後、昨日の前段が当面の取りまとめ、後段が今後の活動というような、2つのパートで議論が行われたかと思うのですが、今後の議論の中で、研究だけではなくて人材についても、工程表というのをこちらのところでおまとめいただいたわけですので、そういったものを踏まえながら、今後、そのテーマについても検討がされ、そういったところで整合が図られるといった形で進んでいくのかなというふうに思っております。

○相澤議員 ただいまの奥村議員の御指摘は、ここでの議論というよりも、部会で議論される内容かと思えますね。それで、資源配分方針としてはこの大枠で行っていると。その部会が私の期待としては工程表等に対応した形でまとめてもらえればいいということで、かなり強く主張してはいたのですが、全体のまとめとしては昨日のような形になったということで、これはひとえに部会での議論によるものかと思えます。

○奥村議員 私の申し上げたいのは、資源配分方針でいいますと、このⅡのところの最後の行に、基礎研究及び人材育成強化のための取組についての取りまとめ（参考3）等を踏まえつつというのは、適正にやや欠けるのではないかと問題意識です。「参考にしつつ」というぐらいが昨日の議論の中身ではないかということをお願いしているわけです。ここを「踏まえつつ」というのは、研究一本やりになっているので、これまでに我々が議論してきたこと、第4章の趣旨とはかなり違うのではないかと思います。ここを「踏まえつつ」というのは言い過ぎではないだろうか。

○相澤議員 なるほど。それは確かにこの文面が意味しているところと、昨日の状況等を考えれば、

今、御指摘のようなところの文章表現は修正可能ですね。

○事務局（廣田参事官） 部会の事務担当としては、部会の先生方がせっかくおまとめいただいたものを単なる参考ということで、そういうランクを落とした言及に修正されることは、大変残念なことでありまして。

○相澤議員 ですから、それは以前からの議論もありましたので。ただ、今のところはそういう趣旨も十分に踏まえて、昨日の内容がこの大臣有識者会合で議論していた内容からしますと、ある一部というふうに受け取られがちだと思います。

○事務局（廣田参事官） 工程表については、部会で実質議論していただくことは全く当たりませんで、部会の意見を何ら反映いたしておりません。

○相澤議員 ただいまの廣田参事官の主張はそれとしても、この会議としての取扱いとしては、先ほどのような修正が適切だと思います。

○中鉢議員 単なるコメント、感想です。前文で縷々言っていますが、最も基本かつ大事なことは、第4期基本計画を着実に進めるということで、そのことをここで言うべきです。縷々、第1パラグラフ、第2パラグラフで言っていますが、これは別にそれほど重要なことではなく、重要なことは第3番目と4番目です。ここで言っていることは何かというと、4期を着実に進めていきますというコミットをして、最初に我が国が直面する課題（1）（2）、これは基本計画の第2章及び第3章を着実に進めていくということですが、去年の取組と違うのは、今年は、協議会の名のもとに産官学の幅広い関係者を集めて重要度を議論し、新しい基準を設定したことです。そして厳選しました。裏のメッセージとしては、この厳選されたものに対してはリスペクトをしてくださいということです。このことが示されていればいい。去年とは違って、きちっと吟味をして、めり張りをつけた厳選したものを出す、こういうプロセスを経るということです。第3章をカバーする（2）の重点施策パッケージは、CSTPとしても重要なことであると見ていることから、こういうことをやってくれという方針を示しています。「各省独自」という議論はありましたが、この末尾のところ、できる限り踏まえの「できる限り」は、少し引けているなという気がします。（2）の一番最後です。取組をできる限り踏まえてくれというのは書かなくてもいいことではないかと思えます。IIは、第4章を言っています。これはいいと思います。それで考えてみますと、新成長戦略では、環境、健康、観光、基礎人材、アジアとともにということなどが言われました。ここで重要なことは、グリーンとライフのイノベーションと基礎人材があそこには入っていたことです。その翌年に閣議決定された第4期基本計画は、東日本大震災からの復興再生という緊急かつ最重点で取り組む必要があるものが出てきましたが、基本的にはグリーンとライフとそれから基礎人材が入りました。日本再生戦略においても、メディアを通して見る限り、骨子はグリーン、ライフ、基礎人材のようですので、我々がきちっと押さえるべきは、第4期をきちっと、かつ、もっと強力で推進すると。そうでないと、この冒頭、前文で改めて記述すると、第4期基本計画を何か変えたんですかというような誤解を招きかねません。ですので、そのような表現は避けたほうがいいと思います。照合すれば第4期と何ら変わりのない前文の書き方ですから、必ず誤解を招くとは思いませんが。変わりないということが、一方ではコンシステンシーとして見え、一方では何の変化点もないというそしりを受けなくもありません。そういうことからすると、テイストの問題だと思えますが、きちっとめり張りを書く、霞が関では、直接的な表現を多用しないということがあるかもしれません。

が、やはり今年はこのことをやったということ、実際に予算化する方々にも理解していただくためのアピールポイントだと思います。そういう意味で、きちっと新成長戦略と基本計画と日本再生戦略を見据えて、我々が出しているんだということを理解していただくことは重要だと思います。

○相澤議員 御指摘の点は、何回か重ねた議論の中で十分議論されたと思います。その結果、こういう表現になったと思います。それから最後に御指摘の今年度はどこが違うのかという一つの重要な点は、戦略協議会という形で、国家戦略に直接に反映できるようにしていること、これが大きな仕組み上の違いだということで、文章が入っているわけです。ただ御指摘のように、文章表現上、それがはっきりとわかるのかということにおいては、いろいろと問題はあるかもしれませんが、御指摘の点のところ、でき得る限り反映した結果がこれだというふうに考えております。

○中鉢議員 私が感じた印象を申し上げただけです。もっと強力に、箇条書きにするなりして、何が違うんだということをわかりやすく前面に出す方がインパクトを与えることができるのではないかと思った次第です。読めばわかりますので、内容はこれで結構であります。新たな場を設定して取り組んだんだぞと。それから基準を明確に決めたんだぞと。全身全霊を傾けて、いろいろな批判にも耐えながらやったコンセンサスがこれなんです。我々はこれを強くサポートする、このことをもっと強く出せば、財務リテラシーに長けた人たちにも理解していただけるのではないかと。別にこれを変えてくださいということではありません。

○相澤議員 それでは、基本的にはこれで御理解いただいたということでよろしいですね。ただ、先ほどの御指摘の2ページ目の第2パラグラフでしょうか。重点施策パッケージの最後の行の、でき得る限りというのは表現上の問題として必要ないですね。これは修正が必要でしょうか。

○中鉢議員 できる限りと言わないといけないのか、それこそさきほどの発言ではありませんが、私にはよくわからないので。私としてはどちらでもいいです。

○相澤議員 これは特段の理由のあるところでしょうか。

○事務局（鈴木参事官） 削除しても構わないと思います。

○相澤議員 では、それは削除してください。そのほか、いかがでしょうか。どうぞ青木議員。

○青木議員 細かいことなのですが、一番最初のところに高齢化問題と書いてあるのですが、これを少子高齢化という言葉で変えたほうがいいと思います。

○相澤議員 これも表現上の問題で、少子を入れてください。そのほか、よろしいでしょうか。それでは、ただいまありました修正をした上で、この会議としては御了承いただいたということにさせていただきます。ただ、本日、後藤副大臣がご出席の予定でしたが、ただいま急な公務で御出席になれないということになりました。そういたしますと本日は、大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合とさせていただきますが、規定上、これを懇談会に切りかえざるを得ません。本日御了承いただいた内容はそのまま有効でございますが、これを政務三役の了承を得た上で、先ほど申しました大臣等政務三役と総合科学技術会議の了承事項とさせていただきます。

この内容が近々開催されると期待される総合科学技術本会議で審議されます。

本日の資源配分方針についての議題は以上とさせていただきます。

本日はこの1件の議題でございます。プレス公開・非公開を区別しているわけではありませんが、これがすべてでございます。前回の議事概要につきまして、お気づきの点は本日の15時までに事務局にお申し出ください。

○白石議員 この資源配分方針はこれで結構なのですが、先ほどのやりとりで、つまり重点化課題取組の参考2というのと、それから人材育成の強化についての取組の参考3というのがある、つまり参考2は「踏まえ」になるわけです。そうすると、参考3は「参考にしつつ」になる。ということは別にその文章上の表現の問題ではなくて、むしろこの資源配分方針等についての我々有識者議員から見て、こういう取組についての取りまとめが本来の期待に沿っている、沿っていないというところの取扱いをどうするのかというのは、これは基本的にやはり何らかの合意が必要だと思えます。単に出てきたものを見て、それでどうもこれは我々が期待しているものとは違う方向に行っているから無視しようとかという話ではないのではないのでしょうか。少しそのところは議論しておいたほうがいいのではないかなと思います。

○相澤議員 いずれも先ほどの表現が多少微妙なのですが、それぞれの検討をお願いしているところから出てきたものですから、それはそれとして十分に重視されると思えます。

○白石議員 誰がそれをするのですか。

○相澤議員 この大臣有識者会合です、それは変わらないと思えます。ただ、それだけかどうかのところ微妙だったところだと思います。ですからその内容そのものが、重要度がなにかということの位置付けではないと思えます。

○奥村議員 私の理解というか、解説しますと、やはり人材部会でこの資源配分にかかわることをやっているのは、実質昨日だけです。これにはやむを得ない事情もありました。工程表を出さないという宿題があったりして、そちらが優先されていたので、資源配分とこの基礎研究・人材というのは、実質昨日1回だけの議論です。必ずしも検討が十分にこなされているとは思っていないし、それに出てきているのは先ほど少し指摘しましたように、基礎研究のアспектといいますか、非常に強調されて出てきて、大学のマネジメント改革ですとか、それからあと社会に出て働ける、グローバルといういわゆる我々の内部で議論していたような大学改革の大きなフレームワークからかなり偏ったような格好で出てきています。昨日議論があったということなので、「踏まえつつ」というのはやはり物理的にも難しいと思えます。ですから、来年以降はやれば、これは十分、踏まえつつということになるのだろうと思えます。

○事務局（廣田参事官） 補足させていただきます。昨日そういう御意見が出ましたので、この参考3につきましても、その教育の観点、人材育成の観点を加えた修正をいたしまして、一応そういう御指摘には対応するものになっていると思えます。

それから、取扱いは私が云々申すことではございませんけれども、工程表につきましては、事実上、2回部会を開催しましたが、一切、部会の御意見は反映させていただいておりません。部会の先生方には事後報告という形で御了解をいただいたことになっております。部会、1回目、2回目につきましていろいろ御審議いただきましたけれども、その後、この大臣有識者議員会合での議論はい

ただきましたが、部会では一切御議論いただいておらず、部会の意見は工程表には何ら反映されていないということを申し上げておきます。

○事務局（吉川審議官） 表現上、やはり、全くとかそういう点は少しやはり見方が違うのではないかなと思いますので、もし事務的に中間的な案を提示するとすれば、先ほど奥村先生が御指摘の人材工程表も重要な参照すべき、踏まえるべき文章ではないかと思うので、それをまず先に持ってきて、それからこの取りまとめも参照していただくという意味で、2つ並べてそれらを踏まえるというふうにすれば、もう少し不時着場所としてはよろしいかと思います。

○相澤議員 先ほど白石議員が御指摘になった、この部会での取りまとめをその内容によって軽視するとか重視するとか、そういう判断は一切なく、それがすべてという取扱いなのかどうかということの議論だと思います。ですから、部会の働きを軽視しているわけではなくて、先ほど廣田参事官の思いを込めての発言というのは、部会の機能を重視して言われているけれども、それも重視して、今吉川審議官から発言のあったように、具体的に工程表ということを出し、それらを並べてという扱いにすれば、大きな問題はないのではないかと思います。

そういたしますと、本日、参考資料として工程表もつけるという、そういうことになりますかね。

○事務局（倉持統括官） わかりました。そこは少しまた御相談します。いずれにしても日本再生戦略というのは別途できて、そこに工程表が載っていて、それはどういうふうに進めるかというのはもちろんアサインがあるわけでございまして、そこと齟齬があるということはないわけですね。

○相澤議員 今、工程表と言っているのは、大臣有識者会合で検討された内容ということですので、その部分。ですから、それが日本再生戦略にどう反映できたとかということは、我々は一切関係ないという立場のほうがよろしいかと思います。

それでは、ただいまの点を少し確認したいと思います。

○事務局（中川参事官） 先ほど来の御議論の中の、特に奥村議員、中鉢議員から御指摘のあった今回の資源配分方針、あるいは今年の予算編成プロセスにおいて、昨年と何が違うのかという点は、ここでの公開の場、あるいは非公開の場でも、何度も議論をされたと思っております。少し御紹介ですが、相澤議員、奥村議員、本日専門調査会の後、このアクションプラン等について、プレスにもより説明というのをいたしますが、そういった折に先ほど中鉢議員がおっしゃられた去年とどこが違う、プロセスのどこが違うのかという点については、特にアクションプランというのを先行してつくり、協議会をつくり、あるいはそれが重点パッケージもあらかじめ示す、あるいはそれをさらにこれから厳選をする。こういったものを如実に表したようなものも出しながら、そこはここでも何度も議論をいただいているので、この点をしっかりとお伝えするということをさらに意を含みたいということで、両議員もお考えであると。

もう一点補足させていただきたいのが、これも奥村議員、中鉢議員、よくこの点でおっしゃっておられ、もう1点強調すべきことが、この予算の重点化プロセス、この資源配分方針決定というのは、ある意味では一つのスタートだということです。この概算要求に向けて、戦略協議会で当面の予算方針ということでやってきたけれども、これは一連の予算編成、あるいはPDCAサイクルのスタートであって、戦略協議会ではこの予算重点化を通してシステム改革等も含め、本当に科学技術イノベーションをどうやっていくかということについて、たくさんの議論がされていて、そういったものが全体のパッケージになって仕上げている、PDCAをやっているんだということです。この

点は、この場で何度も御議論があったところで、そこが昨年までの、重点化してこれをつくって、これで終わりだよというのと全く違うという部分を、強調点の1個と理解しております。その意味では、まさに先ほど奥村先生から議論のあった日本再生戦略とのキャッチボール、日本再生戦略ができ上がって、予算編成でこれができ上がっておしまいというのでは決してなくて、まさに先ほど鈴木参事官からもあったように、グリーンであればそこでキャッチボールをする。ライフも医療イノベーションでやりとりをする。年末に向けてやっていく。基礎研究・人材では、昨日も部会でたくさん御議論がありました。日本再生戦略をフォローアップしていくということもございませし、部会ではまたそういった御議論もしていきます。そういった一連のものうち、まず7月のこの段階ではこの状況だということでございます。決してこの紙ができたから終わりではないという部分も、何度もこの場で議事録にも残っていて、先生方から御指摘のあったところで、そういった意識を持って、この総合科学技術会議として、科学技術イノベーション達成に向けて、国家戦略の中で動いていくという点も、これはともすると各省もプレスの方もいろいろなことが誤解をされているところがあるので、強調点の1個だということ、今日も何度も強調していくということで、その中でしっかりやっていくということだと理解しております。

○中鉢議員 全くそのとおりだと思いますが、少し懸念しますのは、例えば私はある種のコンシステンシーをさきほど説明いたしました。新成長戦略から4期計画、それから日本再生戦略がありますが、例えばグリーンイノベーションというキーワードでは同じですね。ライフも同じです。ですが、例えばグリーンの中でも微妙に違っているように感じます。ぜひ、日本再生戦略のところできちっと整合性を、平仄を合わせていただきたい。違うのであれば、第4期基本計画、昨年閣議決定したことと何が違うのかということを確認に、総合科学技術会議に言っていただきたい。そこにはないものが日本再生戦略に入ってくるということになると、極めて大きな齟齬だと思います。例えば洋上風力発電が大事ですよといったときに、着床式に加え、今度は浮体式もやりますという具体的なことを言うとなると、向こうで議論されているグリーン戦略と、こちらで優先順位が決められていることと違ってくるというのは非常に大きな問題ですし、大きな齟齬はあってはいけません。是非、成長戦略を立案されている日本再生戦略と整合をとっていただきたい。そうでないと、何か同床異夢の戦略をやっているように感じられないとも限りませんので。

○相澤議員 先ほど少し私が確認をいたしますということを申し上げたのは、資源配分方針の本文がこの資料1でございます。それに参考資料として、1から3まで入りますが、1はアクションプランの総まとめ、それから2が重点施策パッケージの総まとめ、そして3が先ほど来の御議論で、工程表及び部会の取りまとめ。こういうことでよろしいですね。

ありがとうございました。

それでは、そのような形式に整えてください。本日のこのまとめが、午後の専調にも反映され、そしてその後の記者レクにも反映されます。

それでは、先ほど終了を宣言いたしましたが、改めまして本日の総合科学技術会議有識者議員懇談会を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

(以上)